



## 議会に届く若者の声

日 時：平成二十七年二月十七日

午後三時三十分より

場 所：北島町議会 議場

町議会議場におきまして、北島中学校生徒会委員二十三名の皆さんと議員十四名にて、一般会議（意見交換）を行いました。

二部制とさせていただき、第一部におきまして現在全国的に公職選挙の投票率の低下が叫ばれ、また来年夏より選挙年齢の十八歳への変更がされますが、それらを受け町議会の仕組み、取り組み等を説明しました。

増谷、武山、坪内、宮本各委員長によります、委員会の説明では、その取り組みの広さに生徒の皆さんも驚きであつたようで、後日「大変」との声も頂きました。

議会として、二〇四〇年問題への関心を持つて頂くようにお願いをいたしました。この問題は二〇四〇年時点において全国八百九十六の市・区・町・村が「消滅可能性都市」に該当し、五百二十三の市・町・村は人口が一万人未満となり消滅の可能性がさらに加速をするという予測であります。大変に難しい事でありますが、中学生なりにしつかりと考へている方も多くいた事に驚きました。

第一部では、今後どのような事を行うことかで、より北島町を誇りに思い住み続けようと思うのかという観点から、諸問題を提案させて頂きました。大変に有意義な時間を持つ事が出来、北島中学校生徒会の皆さんにお礼を申し上げたいと思います。

なお、質問の一部を報告致します。

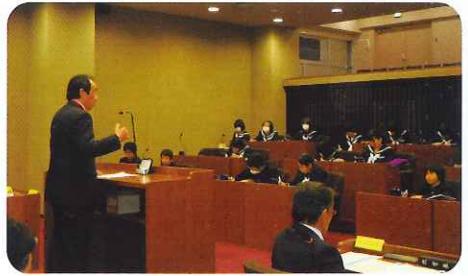
- ① 北島町は少子高齢化に向けて何か対策を行っているか？
- ② 南海トラフ地震への対策は？
- ③ 北島町をアピールするために今している事は？
- ④ 北島町議会が今一番北島町に取り入れたい事は？
- ⑤ 外国人向けの取り組みやゆるキャラの活用法は？
- ⑥ グルメイベントを開催しては？

など、中学生らしい発想も多々感じ、各議員もしつかり調査を行い、答えさせて頂きましたが、北島町の将来を頼もしく感じました。また次回の開催を約束しております。

## 議会と生徒会との意見交換会を終えて

平成27年10月10日 (2)

北島町議会だより



生徒の感想文  
より生徒たちも  
普段よく見てい  
る北島町役場で  
はありますが、  
三階の議場を見  
て別世界が広が  
っていることに  
驚いた生徒は少  
なくなかつたよ

うです。お越しになつたことのない大  
人の皆さまもご都合が付けば是非開閉  
会や一般質問を直接ご覧いただきたい  
と思います。

最初の見学と説明を終えた後、議場  
での模擬一般質問では、普段疑問に思  
ついていることを議席に座つた生徒が質  
問し、役場の職員席に座つた議員が答  
えるという方式で進行しました。住民  
の要望とはいえ、予算・法令・悪影響  
について十分な考察の上でないと対応  
するわけにはいかないということを理  
解して頂けたようです。

選挙の投票率低下についての取り組  
みを理解して頂いたのか、自分も投票  
できるようになつたら是非選挙に行つ  
て責任を果たしたいという生徒がかな  
りいらっしゃいました。議会側として  
は最大の収穫であったように思われま  
す。これからの北島町をもっと良くして

いきたいという当事者意識を持つて貰  
えたことも頗もしい限りです。中でも  
グルメイベントは提案頂いてから後日  
「きたじまるしぇ」を開催しました。  
今後の課題として、対象の生徒を増  
やすことが出来ないかという点と、役  
場の職員と議員との違いをもっと良く  
分かつて貰うためにはどうすればいい  
かを考える必要があるよう感じました。



意見交換会後に頂いた中学生の感想

◎初めての経験だったので緊張した。  
◎北島町のことや質問にわかりやすく教  
えてくれた。

◎仕事は大変だとと思った。北島町民  
全員が笑顔で暮らせる町にしていき

たい。

◎北島町への思いを考えさせてくれた。

◎議場で議員に直接聞くことができた。

北島町の良さをたくさん知ることが  
できた。

◎議場で議員に直接聞くことができた。  
◎町をよくするためにたくさんの費用  
が掛かることが分った。

◎国會議事堂は、町議会のバージョン  
アップなのかなと思いました。課題  
が分つた。明るい空気の輪を広げて  
いこうと思った。

◎北島町のことを始めて知ることがた  
くさんありました。四委員会がある  
ことなど仕組みを知ることができた。

◎北島町の役に立つことができるよう  
なアイディアを考えたい。

◎自分自身で「北島町にしかない誇れ  
るもの」を見つけていきたい。

◎少子化問題についてわかりやすく教  
えてくれた。議会訪問体験がとても  
うれしかった。

◎北島町で未知の場所があつたことに  
驚き、感動した。

◎自分たちが住んでいる北島町をよく  
する政治に関心を持ち選挙にも積極  
的に参加しようと思った。

◎「北島町を発展させていこう」と思  
う気持ちが力強く伝わってきた。

◎北島町に特産品がないことに驚いた。  
◎特産品を使ったイベントを開催した  
ら盛り上がると思う。

◎これから北島町は自分たちで創る  
ので、選挙に行くべきだ。

好評につき来年も意見交換会を行  
う。北島町の様々な問題が改善でき  
るよう少しでも協力できたらよいと思  
う。



# 平成27年度前期徳島県町村議会議員研修会



西部中心の八町と南部中心の七町一村に分かれて実施されることになつております。田口先生の話の特徴は、聴衆にフォーカスするのがとても上手だということです。つまり市議会では〇〇だが町村議会においては必ずしも当てはまらない

い、という落とし込んだ話をして貢えます。

先生のお話によれば、「地方創生とは大都市の論理であり、過去の傾向をそのまま未来に適用しただけである。将来検証したらズレがあるはずで、これから対応によって未来を変えることもできる。まず議会としてはアクションを起こすべきで、具体的には『地方創生特別委員会』を設置して取り組みの姿勢を明確にすべきである」との

また決定された高知との合区問題について、地方切り捨ての最たるものであるとし、「合区反対決議」を各議会で議決することによって地方の存在感をアピールするべきであるとのお考えを伺いました。

普段は聞きなれない決算カード、地域内循環などの単語に加えて質疑と質問の違いなどこれから議員活動に役立つ知識をたくさん得ることができます。

文責 板東 泰史



## 町内工場視察研修



日清紡ホールディングス㈱は、スマートファクトリーの規模が大きくなつて、操業時六百名余りの従業員が現在二百名規模に縮小されている。町内敷地内工場は、ペーパープロダクト部門の約半分程度であり、ジーンズ製造は排水問題があり、町内への工場新築は、難しいのが現状である。太陽光発電のほとんど四国電力へ売電している。定点カメラシステムによつて、災害予防などの利用できるシステムの構築が進んでいる。

東亜合成㈱においては、操業時五百名から百十二名(四割北島町民)に減少した。高濃度無水塩酸の製造が主である。工場で生産している水素を利用したステーションの構想もある。敷地内で空き地が目立つたのが印象的であった。防液堤の高さも前回に比べ格段の高さになつていた。年二回塩素漏洩対策を実施している。年休の取得率や労働時

間短縮などを実施している。津波対策や、浸水対策として塩素タンクの周りにタンク内総量が貯蔵できるように埠を巡らせた。

四国化成工業㈱においては、二百四十六名である。約七割が町外から勤務している。産廃の減量化や省エネに努めている。塩素ガスは、東亜合成からパイプラインで繋がつており、緊急時にはパイプ口をシャットダウンするよう平常から訓練を行つている。

文責 板東 泰史

四国化成工業㈱においては、北島町太郎八須で操業し、大型充填機械の製造を行つておらず、単価の安い製品については海外で製造を行つている。四百名が徳島で働いていて、八十六名が北島町在住である。

大鵬薬品工業㈱においては、DVDで工場の規模等視聴した後、工場内を見学した。昨年操業し、制がん剤の製造を行つてている。新たに新工場を建設中で治験薬の製造を行つ予定である。

四年前に東亜合成・四国化成・四国化工业、日清紡は一昨年見学し、大鵬薬品も操業時に見学をした。新工場の現状についてお伺いした。四国化工业を除き本社機能が町外や県外にあるため、売り上げに対する税収は変わらない。工場施設の充実や新工場の建設による固定資産税に頼らざるを得ない現状にもどかしさを感じ、新工場を北島町へと要望した。

業株

日 時：平成二十七年七月二十一日 及び七月二十四日

視察先：日清紡ホールディングス㈱・東亜合成㈱・四国化成工業㈱・四国化工业機㈱・大鵬薬品工

株田茂徳島県町村議会議長会、影治信良美波町長の挨拶のあと、「地方創生と議会」をテーマに新潟県立大学の田口一博准教授の講義がなされました。

文責 中 勝

閉会中の所管事務調査 総務常任委員会

日時：平成27年8月3日（月）4日（火）

視察先：鳥取県智頭町役場（百人委員会について）・倉吉市役所（介護支援ボランティア制度について）

參加議員：武山總務常任委員長、板東總務常任副委員長、北島議員、中野議員、羽坂議長、久次米總務課長

### 〈鳥取県智頭町役場（百人委員会について）〉

町長が、新しく「百人委員会」の取り組みをはじめました。「百人委員会」は、平成21年度当初予算に、町民の声を反映させようと企画したもので、7つの検討部会を立ち上げ、150人の参加者が公募で集まりました。平成20年12月までに提言をまとめ、町長側にプレゼンし、検討した結果、採用されるものであります。プレゼンした住民側に次年度、実行・運営する責任があります。提案するが運営しないのなら、予算化はされません。

このプレゼンが継続され、平成27年度予算は、中高生のプレゼンがあり、470万円が予算化されています。



従来は国から予算が下りてきて、地方自治体は淡々と処理していれば良しとされてきたが、今は人口減少、社会保障費の負担増で、財政運営は益々厳しくなる中で、行政だけ、議会だけの時代ではなく、将来の町づくりに対して、住民と協議の機会を持ち、中高生、あらゆる階層の方々との対話が必要であります。そうしないと、ますます行政、政治から乖離していきます。

今回の「百人委員会」をそのまま導入はできませんが、特に注意を引いたのが、町長と幹部職員が80の集落を回り、説明をしたそうです。このように住民の声を聞くのは、行政も、議会も同じ。その為に、情報をわかり易く出し、協議していく場は、必要であります。物事には、いつの時も、初めがあります。何もしなければ、何も起こりません。

投票率低下、無投票がある中で、目先だけでなく、将来に向けて、合意形成を図る努力をしていく必要があります。それが、地方創生の基本と考えます。

## ＜鳥取県倉吉市役所（介護支援ボランティア制度について）＞

倉吉市は昨年に介護保険制度が改正になり、10人以下の小規模施設が、地域密着型サービスへの移行、介護支援ボランティアの導入をしました。要支援1・2を地域支援事業に再編成等があり、平成27年4月スタートであります。

倉吉市では先んじて、平成24年4月より、介護支援ボランティア制度を導入し、シルバー人材センターに委託し、介護予防を推進しています。この制度は介護ボランティアを募集し、（対象は65歳以上で、登録者は108人ですが、実働は56人）受入施設に行き、（47ヶ所）ボランティア活動をし、スタンプを押してもらいます。1日2スタンプを上限に、1スタンプにつき、100円、上限5,000円であり、それを個人の口座に振り込むものです。あくまでも、介護予防を目的にし、介護の補助的活動であります。

介護認定率が、平成26年度18.9%（ちなみに北島町は16.9%）で、平成26年以前また今後推定値もほぼ横ばいであり、介護予防の効果であると自負されていました。今後要支援の1・2は、自治体に移行するので、要支援1・2を分けて対応する点、また介護支援ボランティアを、在宅支援に拡大していく計画だそうです。

北島町においても、ボランティア導入を図りながら、介護予防、在宅介護支援を充実していく必要があります。

文責 武山 光憲

